

## 第2次

# 遊佐町エネルギー基本計画

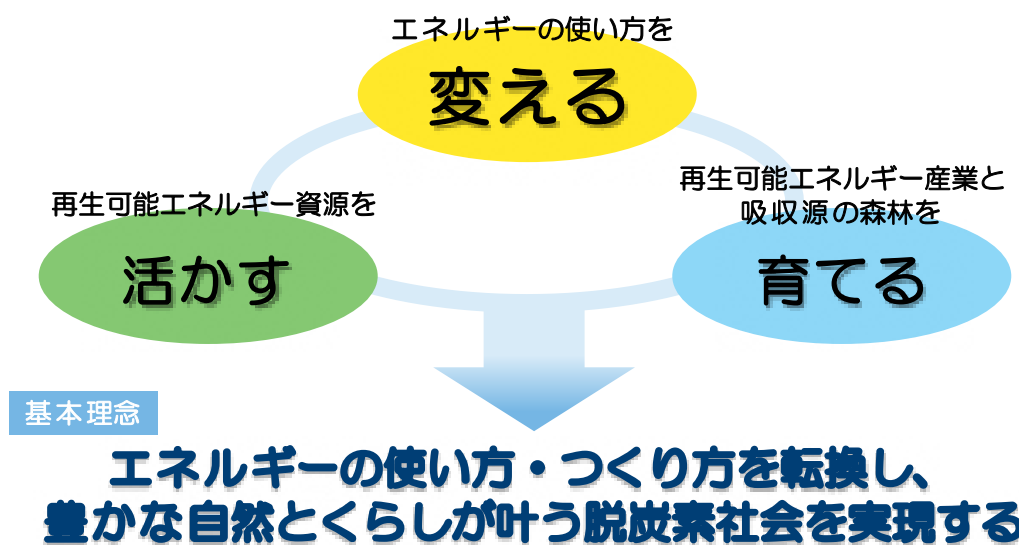
令和6（2024）年度 ▶▶▶ 令和12（2030）年度

## 概要版

遊佐町は、令和5（2023）年5月31日に「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。

気候変動（地球温暖化）によって暮らしにくい地球になってしまうことを避けるために、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること（＝カーボンニュートラル・脱炭素）を世界に向けて発信したものです。

これを実現するため、「遊佐町エネルギー基本計画」を改訂しました。行政と町民、事業者の3者が一体となって、化石燃料に頼らない、持続可能な脱炭素社会に向けた取組を進めていきます。



### このまま気候変動（地球温暖化）が進むと…

温室効果ガスの排出削減が進まなければ、今世紀末には山形県の平均気温は**4.7℃**上昇し、真夏日は**46日**増加すると予測されています。「暑くなる」ということの他にも、さまざまな影響が考えられます。

- 熱中症で搬送される人の数が増える（最大11倍）
- 品質の良いコメが獲れなくなる
- 海水面が上がり、砂浜の面積が減る（最大81%消失）
- 豪雨が増え、土砂災害が多く起きる、大規模化する

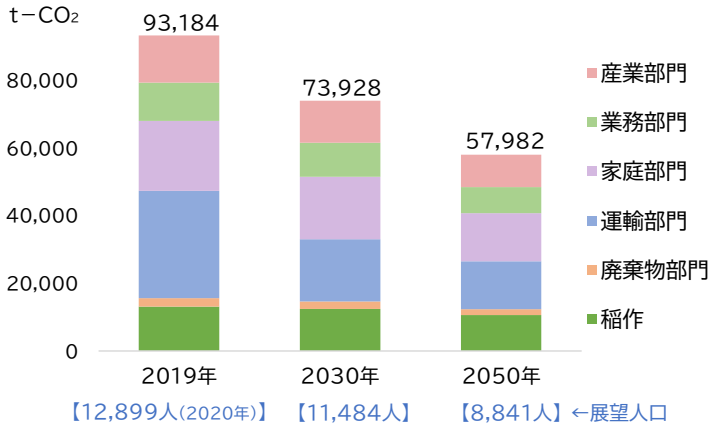
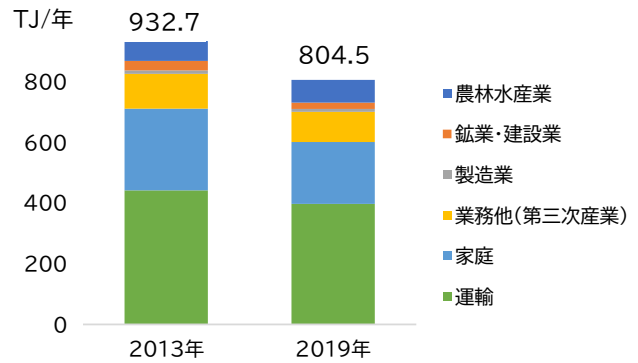
気候変動の影響はすでに世界各地で生じています。影響をより強く受けているのは、現在、私たちよりも少ないエネルギーで暮らす国・地域の人々や、将来の遊佐町民であることも、重要な視点です。

# 遊佐町でのエネルギーの使い方は？CO<sub>2</sub>排出は？

町内のエネルギー消費量は804.5TJ/年（令和元（2019）年）でした。

平成25（2013）年との比較では、全体で14%減少しています。

エネルギー消費量が多い部門は運輸（特に自動車）、家庭です。灯油などの化石燃料の割合が高いことも特徴です。



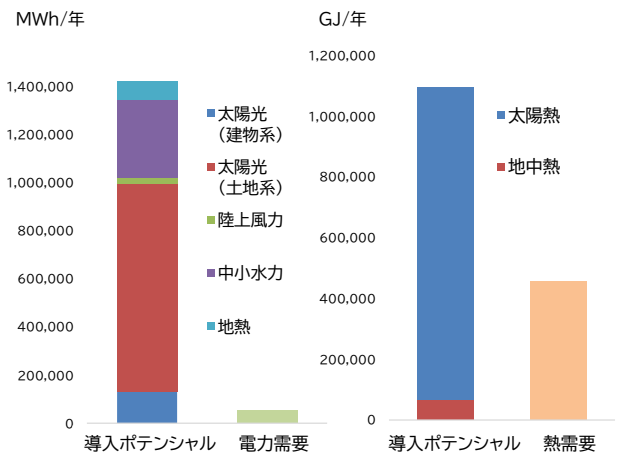
エネルギー消費にともなう温室効果ガスの排出量は84,000t（令和2（2020）年/CO<sub>2</sub>換算）でした。農地（水田）から発生するメタンを含むと、全体の排出量は約93,000tです。

人口減少に伴って今後は減少していく見込みですが、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、さらなる排出削減・吸収対策が必要です。

遊佐町には再生可能エネルギーの資源量が豊富にあり、電力は町内で消費する量の約25倍、熱は約2.4倍のポテンシャル（導入可能性）があります。

すでに大規模な再生可能エネルギー事業も動いていますが、町内で生産された再生可能エネルギーを町内で利用する仕組みがないことが課題です。

再生可能エネルギー資源の活用にあたっては、豊かな自然環境を守ることを前提とし、産業・コミュニティが活性化するような事業にする必要があります。



## エネルギー基本計画の目標は？

町内のエネルギーの使い方と温室効果ガスの排出状況、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルなどを踏まえ、「エネルギーの使い方・つくり方を転換し、豊かな自然とくらしが叶う脱炭素社会を実現する」をエネルギー基本計画の基本理念としました。エネルギーの使い方を「変える」（省エネの徹底、電化など）、再生可能エネルギー資源を「活かす」、再生可能エネルギー産業と吸収源の森林を「育てる」の3本柱で、下記の目標達成に向けた取組を進めます。

温室効果ガス排出量の目標（2030年度）：**31,203t-CO<sub>2</sub>**

（2013年度比 約68%削減）

上記を達成するエネルギーの目標 エネルギー需要量を削減する ➡138.9TJ

再生可能エネルギーを導入する ➡166.5TJ(エネルギー需要の41%相当)

## 具体的な取組は？

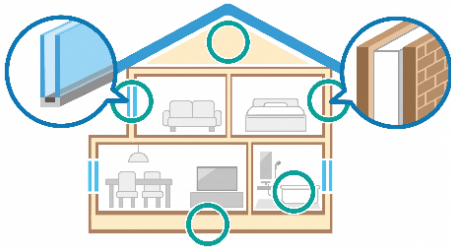
計画の目標達成に向けて、3本柱に沿って様々な取組を展開していきます。ここでは、特に重要度が高い「重点プロジェクト」を紹介します。

### 既存住宅の「省エネ住宅」化推進プロジェクト

「省エネ住宅」とは、断熱性・気密性・遮熱性を高めた住宅のことです。

断熱性・気密性・遮熱性を高めることで、暖房や冷房に使うエネルギーを減らすことができ、冷暖房を使用している部屋だけでなく、他の部屋との温度差も少なくなります。ヒートショックを予防したり、騒音・結露の防止する効果もあります。

窓や壁、浴室の断熱などを含む省エネルギーフォームを推進し、エネルギー削減と健康・快適性の向上の両立を狙います。



### エコドライブ徹底実施プロジェクト

運輸部門の対策として重要なのは、電気自動車やハイブリッド車への切り替えと合わせて、既存の自動車でもすぐに取り組み始める「エコドライブ」です。エコドライブを実施することで、10%程度の省エネ効果が期待できます。

エコドライブは、急アクセル・急ブレーキを避ける、加速・減速を少なくする、渋滞を避けるなどのテクニックがありますが、こうした行動は燃料消費量の削減はもちろん、交通事故のリスクを減らし、同乗者や町民全体が安心できる安全な運転でもあります。

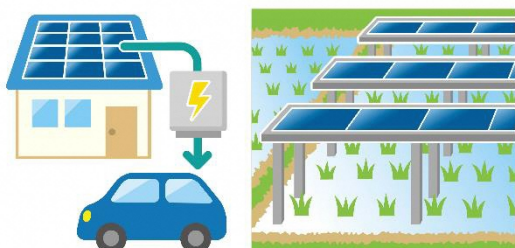


### 太陽光発電大量導入プロジェクト

洋上風力発電を除くと、遊佐町の再生可能エネルギーポテンシャルがもっとも高いのは太陽光発電であり、中でも広大な農地におけるソーラーシェアリングは、非常に大きな可能性を持っています。

このほか、耕作の見込みがない荒廃農地では土地置き型とし、住宅や事業所屋根、カーポートも活用するため、設置・活用事例や補助制度の情報発信を強化します。

蓄電池を併用した自家消費や、電気自動車から住宅に給電するV2Hなども含め、有効な形で太陽光発電システムが活用されることを推進します。

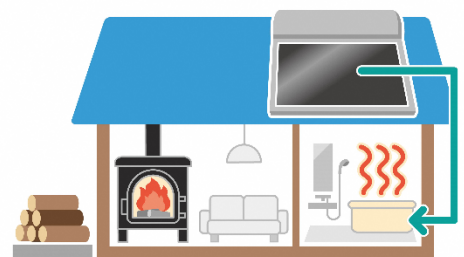


### 熱の再エネ化プロジェクト

家庭のエネルギー需要のうち、給湯が28%、暖房が25%と、「熱」に関わる割合が高くなっています。給湯・暖房機器の電化を進めることと、再生可能エネルギーでまかなうことも重要です。

太陽の熱を温水や暖気として活用する太陽熱利用システムの導入や、薪ストーブ、ペレットストーブ、薪ボイラーなど木質バイオマスを活用する設備の導入を推進します。

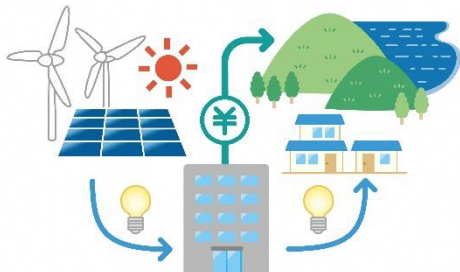
木質バイオマスの活用は森林整備につながるため、吸収源対策としても有効です。



## 再生エネルギー関連産業育成プロジェクト

再生可能エネルギーで発電した電力を地域内で消費できる仕組みとしての地域新電力（小売電気事業）の立ち上げや、太陽光発電システムを導入する際のコストダウンや相談窓口のためのコンソーシアムの立ち上げなどを検討します。

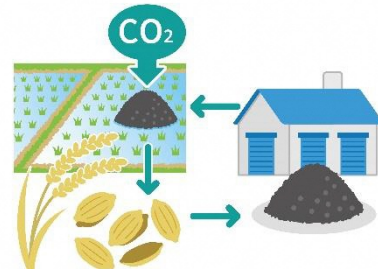
洋上風力発電の事業者に対しては、地域振興や漁業振興につながる各種方策をしっかりと求めていきます。



## バイオ炭による農地固定プロジェクト

もみ殻くん炭などの「バイオ炭」を農地に施用すると、分解・燃焼の場合に空気中に出ていくCO<sub>2</sub>を地中に固定することができます。固定した炭素量は排出量取引を通じて販売することもできます。

炭化装置の導入や施用のコストと、排出量取引で得られる収入のバランスなど、実現可能性を検討していきます。



## エネルギー教育・人材育成

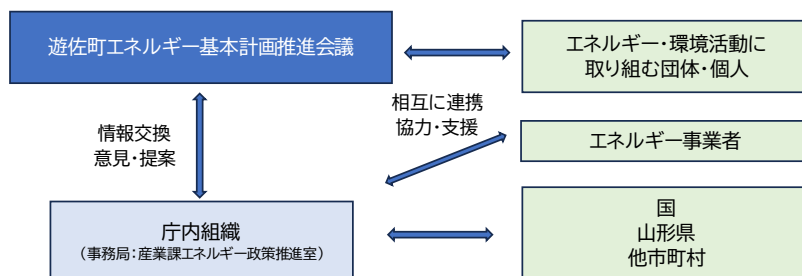
町民・事業者のエネルギーに対する理解を深め、カーボンニュートラルに向けた行動を促すための情報提供や学習機会を充実させていきます。

小中学生向けには、再生可能エネルギー関連施設への見学などを通して、エネルギーと暮らし・仕事を結び付けた学習を展開します。

また町外の小中学生に向けて、エネルギーについて学べるプログラムを企画し、教育旅行のメニューとして加え、広く発信します。



以上の重点プロジェクトのほか、遊佐町環境基本計画に関連する事業も含め、様々な角度から取り組みます。取り組みを進めるにあたっては、遊佐町エネルギー基本計画推進会議を設置し、計画の進展状況を評価・公表します。地球温暖化防止活動推進を目的とする「エコすまいる・ゆざ」や、再生可能エネルギーの普及による地域活性化を目的とする「遊佐地産地消エネルギー協議会」といった、町民や事業者らによる団体や、エネルギー事業者、山形県、国、他市町村等との連携を強化していきます。



令和6(2024)年 4月

発行 遊佐町役場(事務局 産業課エネルギー政策推進室)

〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴202番地 電話:0234-72-3311(代表)